

連合福島第35回臨時大会開かれる

福島の復興・創生に全力を尽くそう！

～すべての働く仲間とともに「必ずそばにいる存在」へ～

連合福島第35回臨時大会は、6月20日福島市のとうほう・みんなの文化センターにおいて、役員・代議員など約160名が出席し開催した。

冒頭、今野泰会長は『今日は、参院選の取り組みの確認と意思統一を図ること、また、新たな執行体制の確立をする大会となる。』

今回の参院選をマクロの視点でとらえれば、自民党岸田長期政権の足掛かりとするのか、その是非を問うことにある。激戦区がある福島県内では、昨年での総選挙で見せた力、それ以上の力を発揮しなければならない。そして、その先頭に立つのは連合福島に結集をする皆さんに他ならない。



代議員の皆さん



挨拶する 今野泰 会長

また、比例区におい

ては、組織内議員すべての勝利により、連合結節点となるイニシアチブをとる組合員の団結と力を内外に示す戦いとなる。県選挙区小野寺あきこ候補者、比例区組織内候補予定者全員の勝利は、最後まで諦めない、私たちの行動にあることを全体で確認したい。

県内では復興の兆しが見え始めた中での相次ぐ自然災害の発生、政治状況をみれば、参画意識を高めることが喫緊の課題とされている。このような中で連合福島は、県内のナショナルセンターに留まらず、未曾有の大震災を経験した組織として、また組合員一人一人が当時の苦労や経験を糧にひたむきに復興創成に取り組んでいる。一方で格差や貧困は深刻化、拡大しており、多くの仲間は将来未来への希望や夢を支えに辛抱の日々を送っている。そのような仲間目目を凝らし、耳を傾け、共に励まし合い、手を差し伸べる常にそばにいる存在となるべく運動を進めている。そしてその運動は辛抱我慢を必ず包摂と寛容へと成長させる。私自身、多くの方々に支えられ今日まで会長を務めることが出来たことに厚く御礼を申し上げます。新たな体制についても是非皆様のご理解とご協力をお願いしたい。このような状況打開に向けてさらなる連合福島運動の前進躍進が確信できる体制づくりをお願いする』と挨拶した。



左から内堀雅雄福島県知事、石上千博連合本部副事務局長、金子恵美立憲民主党県連代表、

梅津正則国民民主党県連幹事長、馬場雄基衆議院議員、瓜生信一郎県民連合会長、木幡浩福島市長



今野会長へ感謝状贈呈

その後、御来賓の内堀雅雄福島県知事、石上千博連合本部副事務局長、金子恵美立憲民主党県連代表、梅津政則国民民主党県連幹事長、馬場雄基衆議院議員、瓜生信一郎県民連合会長、木幡浩福島市長から祝辞が述べられた。

第1号議案『2022 春季生活闘争のまとめ (案)』には、自治労・根本代議員からの発言があり、執行部として受け止め、賛成多数で決定された。第2号議案『「規約にもとづく規制」の一部改訂について (案)』、第3号議案『第26回参議院議員通常選挙必勝に向けた取り組みについて (案)』、第4号議案『役員補充選出について (案)』も賛成多数で決定された。補充役員の選出では、

会長に澤田精一氏（自治労）、会長代行に鈴木重一氏（電機連合）、副会長に澤村英行氏（自治労）、執行委員にと松本雄一氏（電機連合）がそれぞれ選出された。退任される今野会長に感謝状が贈呈され、御挨拶を頂いた。新役員を代表して澤田新会長が『今の状況での最大の課題とは、運動の強化であり、組織の拡大である。働くみなさんが自信をもって労働運動に専念できる環境を整え、そして組織の拡大をすることは最大の課題だと思っている。これは組合に結集する者だけでなく、働く者すべてを対象として、連合福島の組織の強化拡大を図っていく決意である。連合福島には7万人を超える組合員がいる。その先頭に立つというこの責任を痛感している。この間、築き上げられた今野会長の運動をしっかり引継ぎ、更に前進させることが私に課せられた使命だと感じている。新しい執行部の下、精一杯連合福島の運動を取り組み、前進させていく』と挨拶した。



役員を代表して挨拶する澤田精一新会長

『構成組織、単組、組合員、地域・地区連合が強固な団結を背景に働くものの生活改善、制度実現に総力を挙げて取り組む』とした大会宣言が採択された後、澤田会長のガンパロー三唱をもって第35回臨時大会を閉会した。



澤田会長によるガンパロー三唱